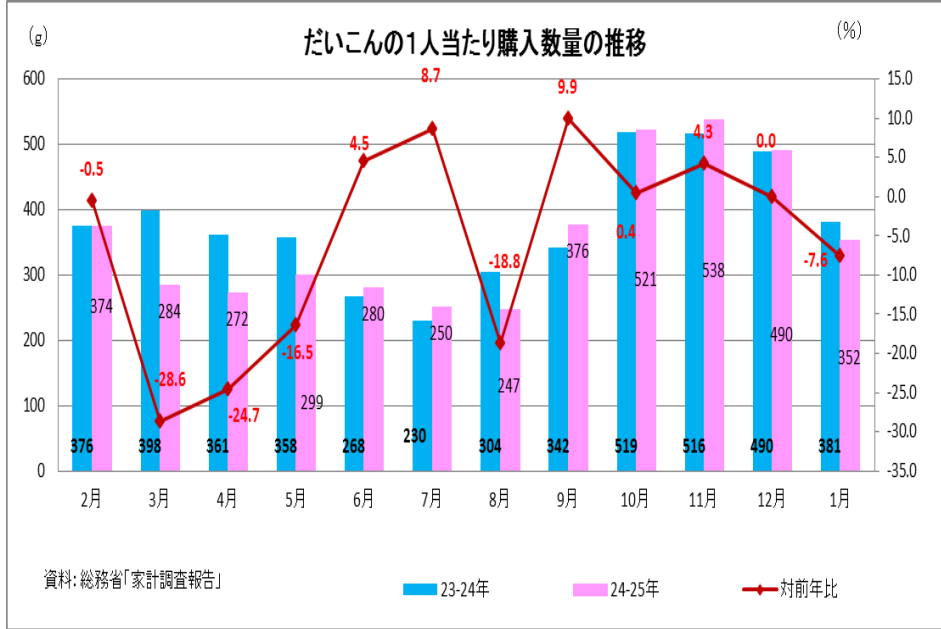
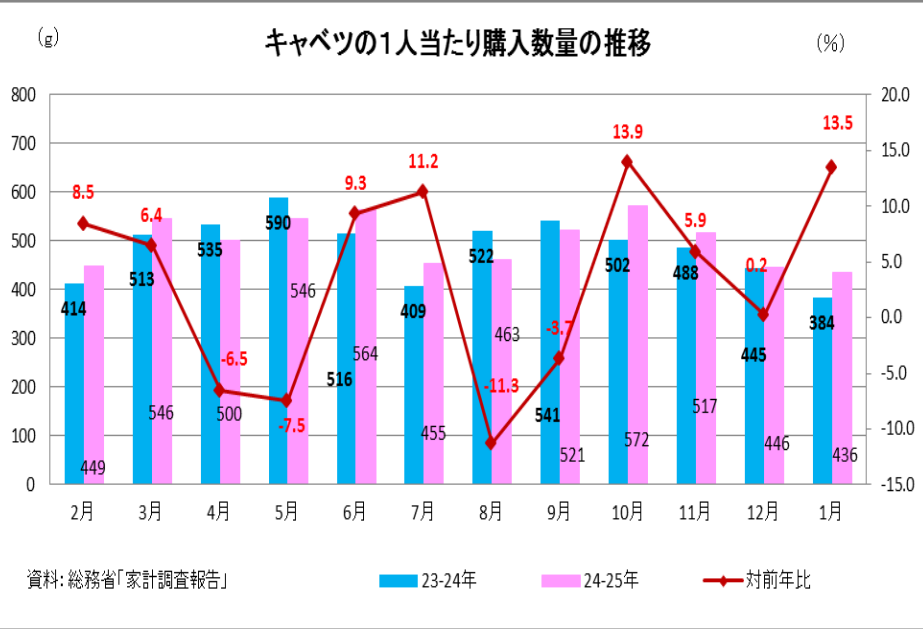
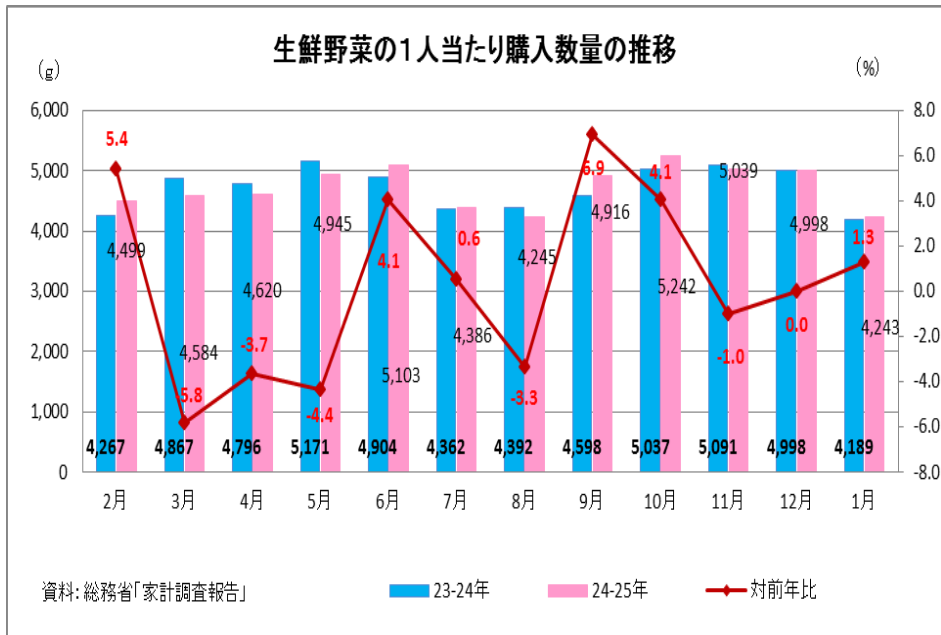


野菜の消費関連資料

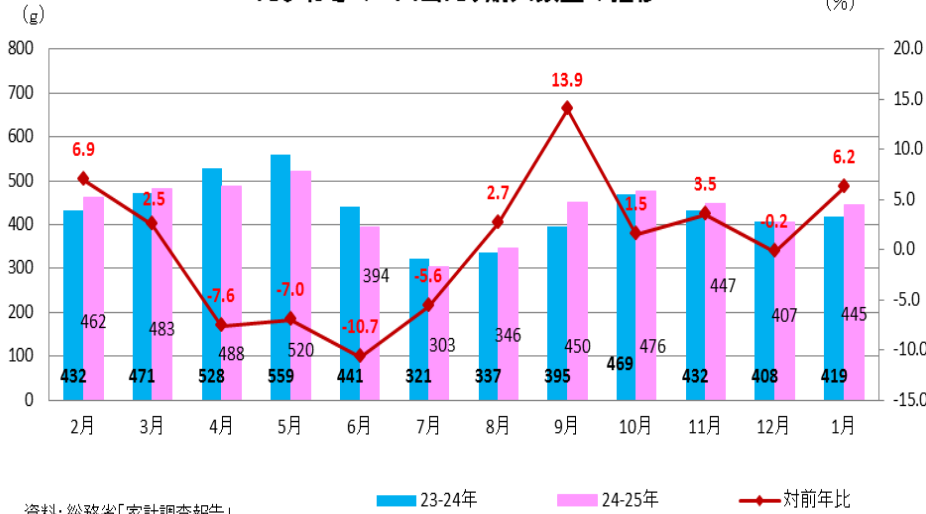
1 1人当たり購入数量の推移

・生鮮野菜の購入数量は、2～6月及び12月以降の低温や曇天の影響により高値となったことに加え、8月は猛暑により根菜類と葉茎菜類の消費が減退したことから、3～5月、8月及び11月が前年を下回って推移。

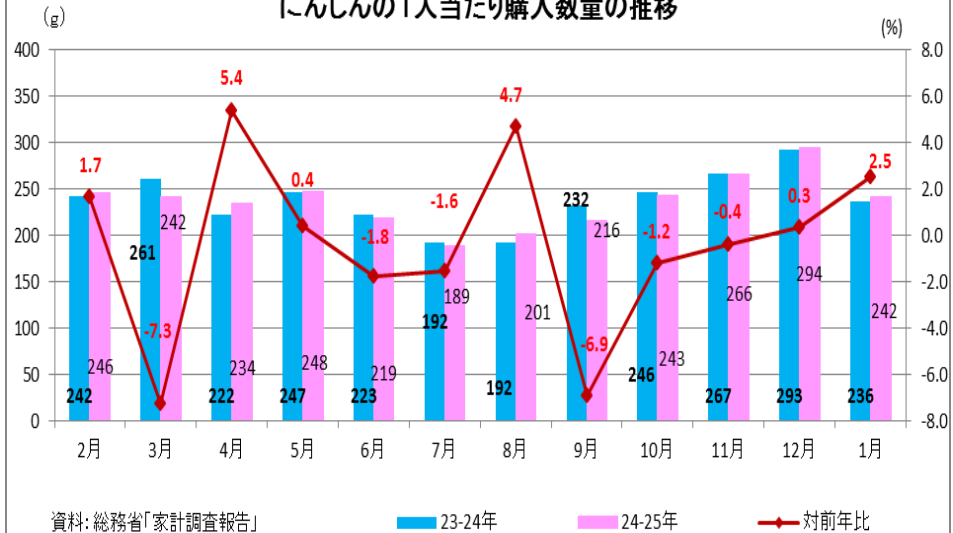
・2月及び6月は前年が低温・少雨であったこと、また、9月は前年がレタス及びはくさいに病気が発生した影響により、高値で購入数量が少なかったことから、前年を上回った。



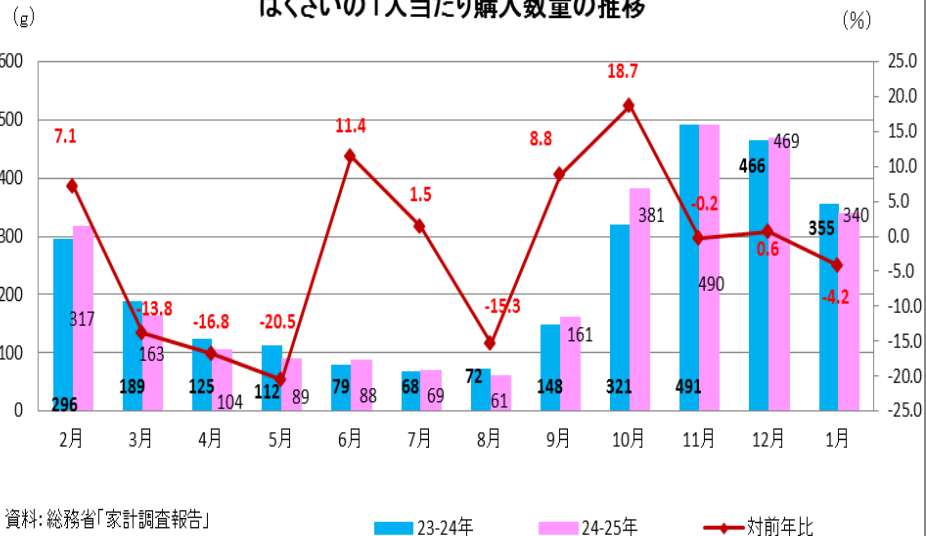
たまねぎの1人当たり購入数量の推移



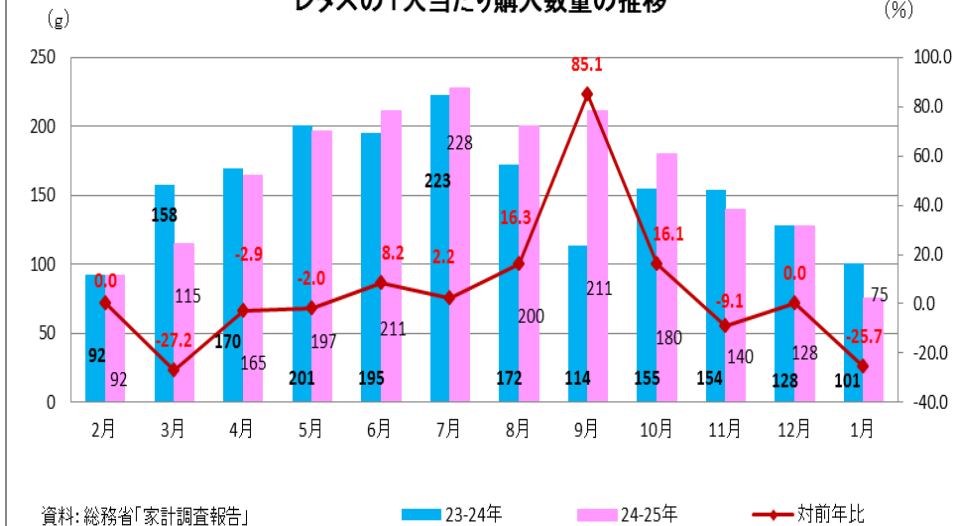
にんじんの1人当たり購入数量の推移



はくさいの1人当たり購入数量の推移



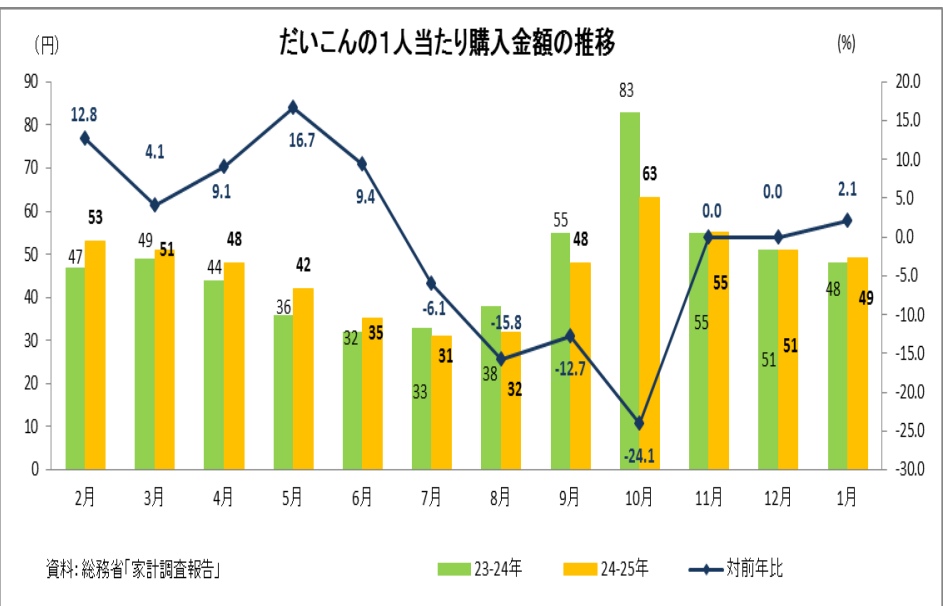
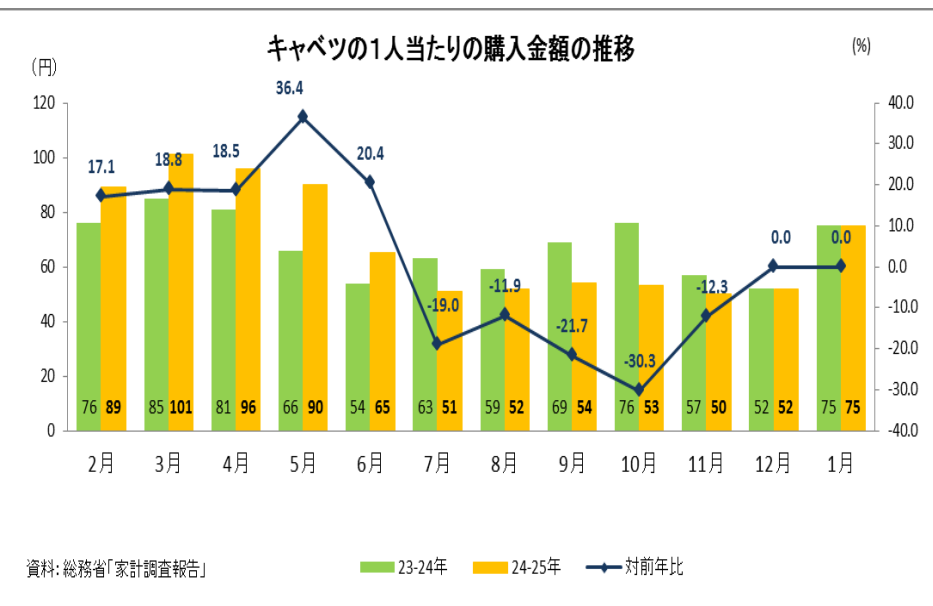
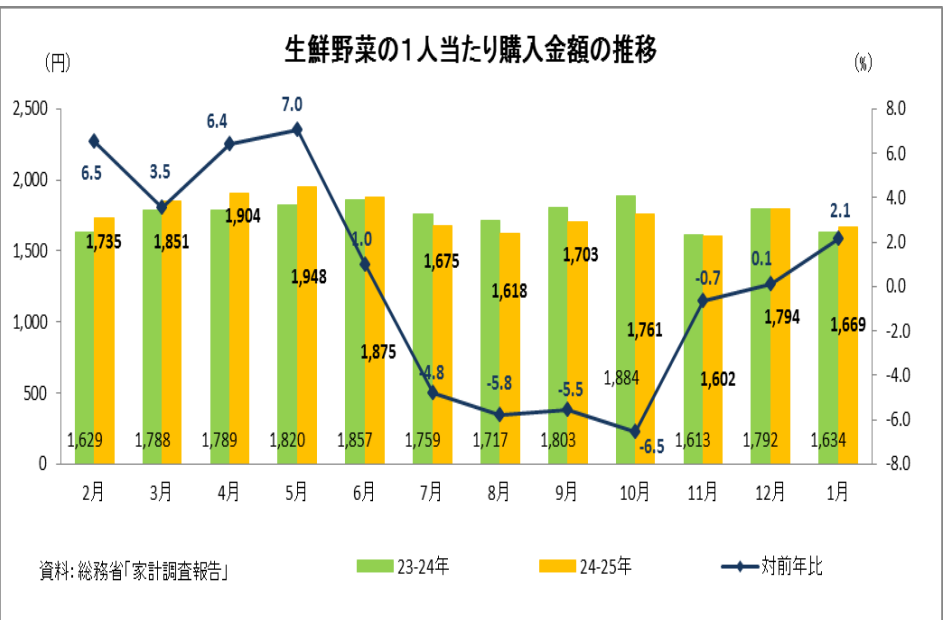
レタスの1人当たり購入数量の推移



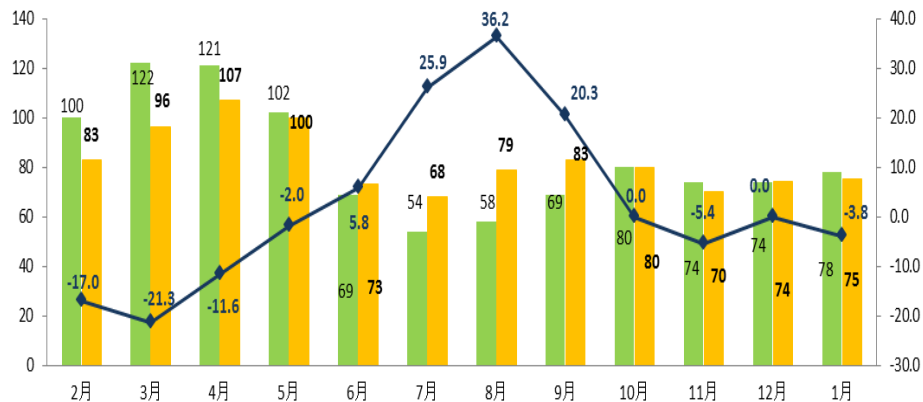
2 1人あたり購入金額の推移

・生鮮野菜の購入金額は、2～6月は、低温、少雨等の影響により前年を上回ったものの、7～11月は、好天により野菜の生育が順調であったことから安値で推移したことに加え、猛暑により8月の購入数量が減少したことから、前年を下回った。

・12月以降、北海道産の豊作により平年を大きく下回る価格となったたまねぎや、高値で購入数量が大きく減少したレタスを除く品目では、低温、降雪等による生育の停滞により、低温等により高値であった前年並みかそれ以上となった。



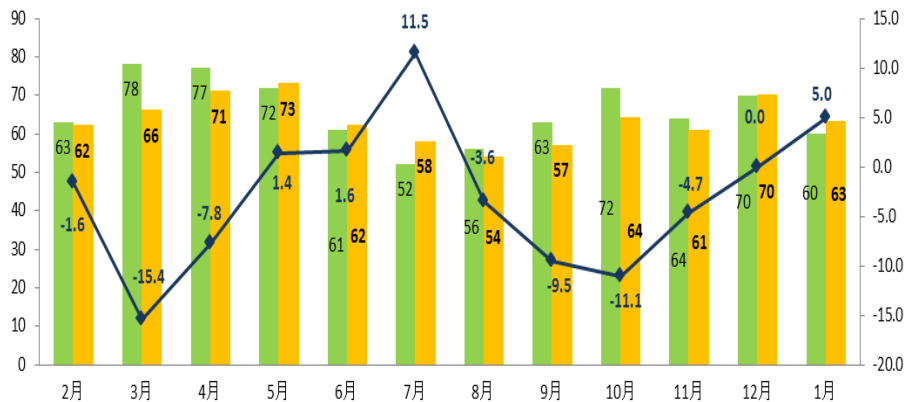
(円) たまねぎの1人当たり購入金額の推移 (%)



資料:総務省「家計調査報告」

■ 23-24年 ■ 24-25年 ◆ 対前年比

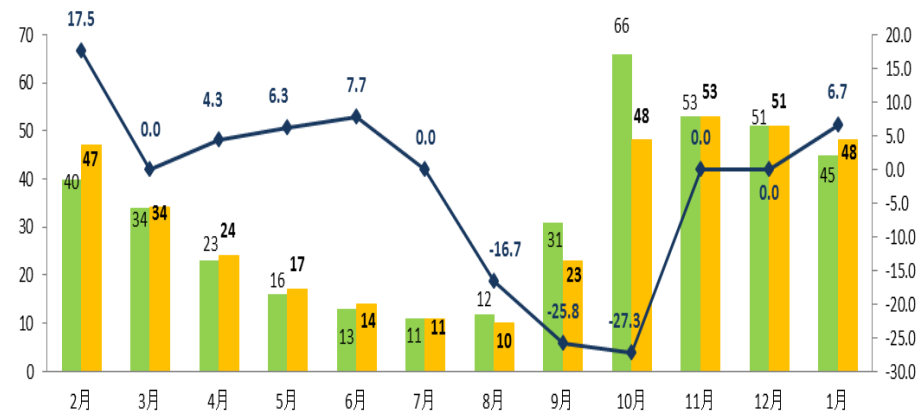
(円) にんじんの1人当たり購入金額の推移 (%)



資料:総務省「家計調査報告」

■ 23-24年 ■ 24-25年 ◆ 対前年比

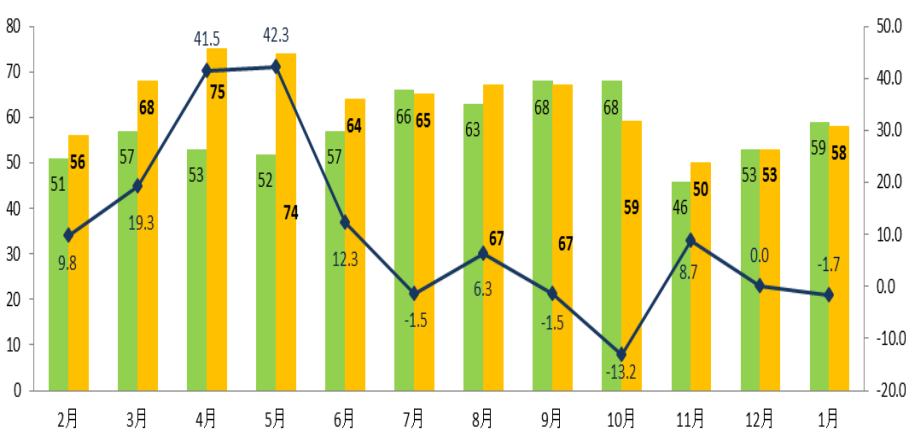
(円) はくさいの1人当たり購入金額の推移 (%)



資料:総務省「家計調査報告」

■ 23-24年 ■ 24-25年 ◆ 対前年比

(円) レタスの1人当たり購入金額の推移 (%)

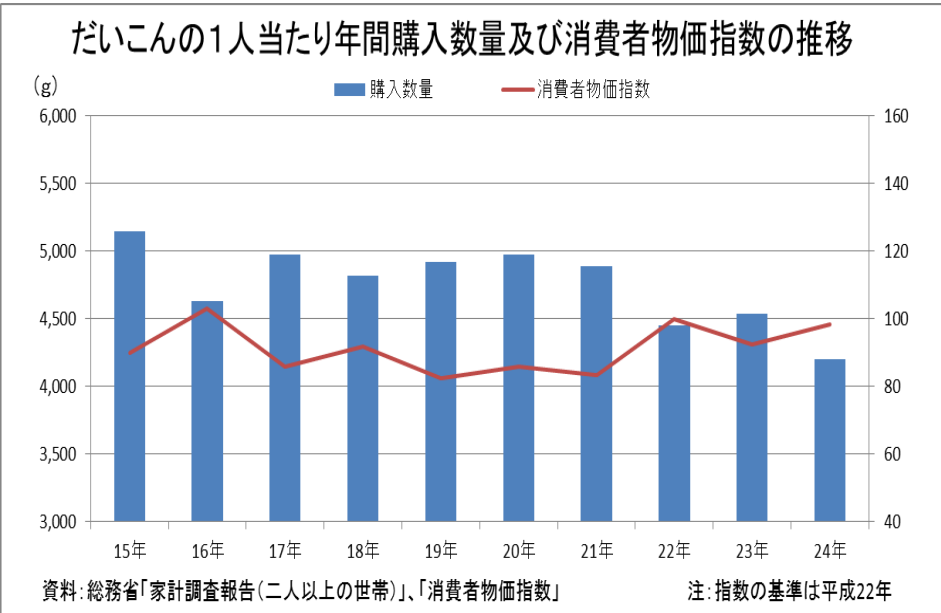
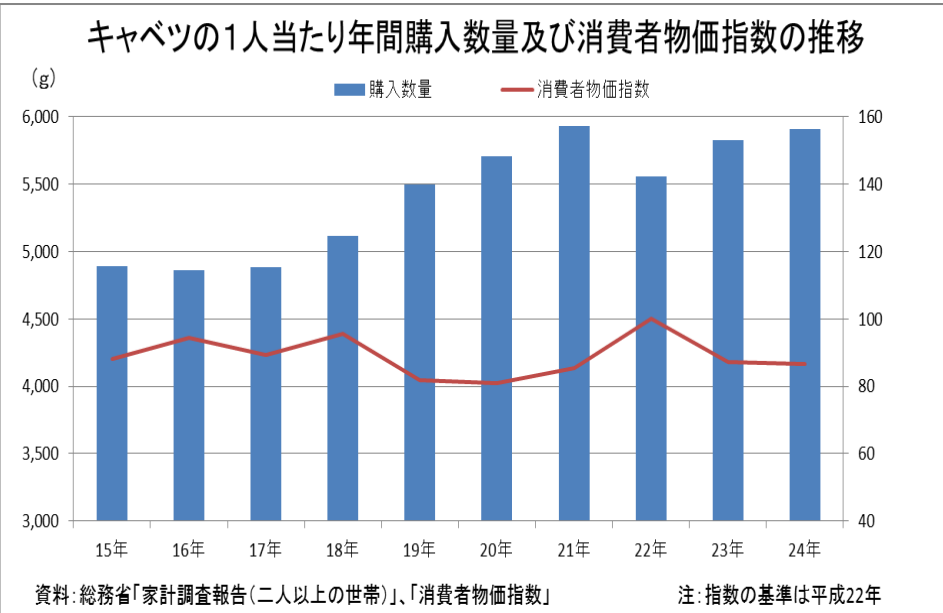
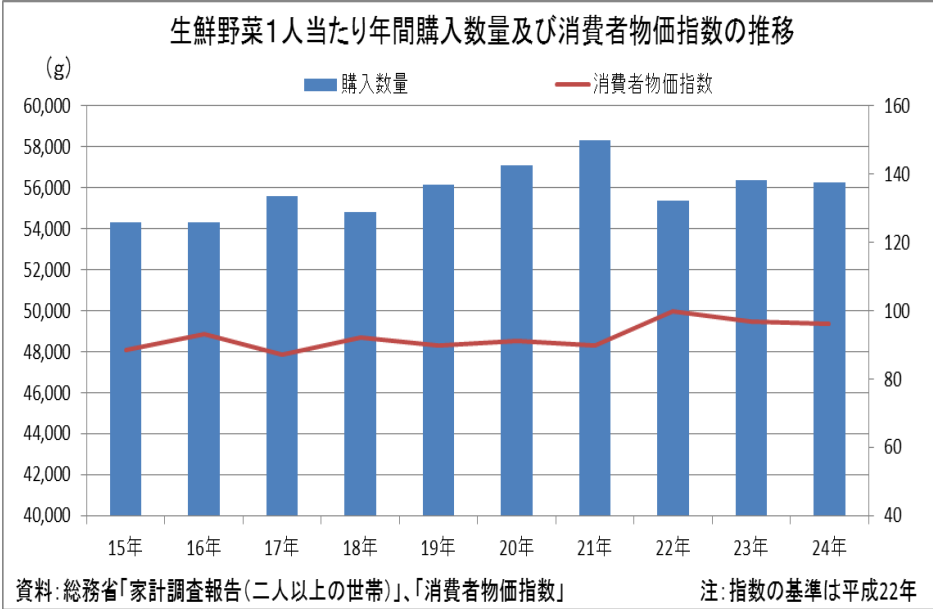


資料:総務省「家計調査報告」

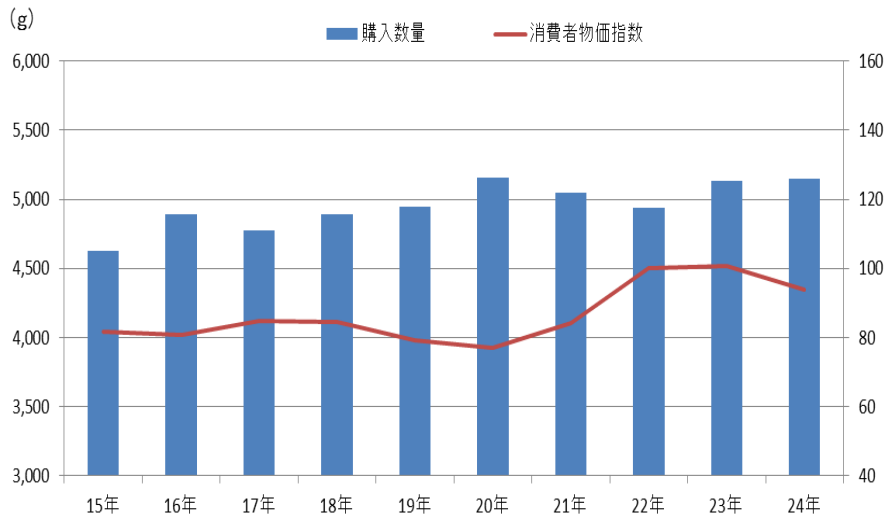
■ 23-24年 ■ 24-25年 ◆ 対前年比

3 1人当たり年間購入数量等の推移

- ・生鮮野菜の1人当たり年間購入数量は、年によって変動が見られるが、消費者物価指数が高くなると、購入数量が少なくなる傾向がみられる。
- ・品目別に見ると、だいこんを除いて、概ね増加又は横ばい傾向となっている。
- ・だいこんは減少傾向で推移しており、特に50歳以上の年齢階級で減少幅が大きく、49歳以下の購入数量が極端に少ない。



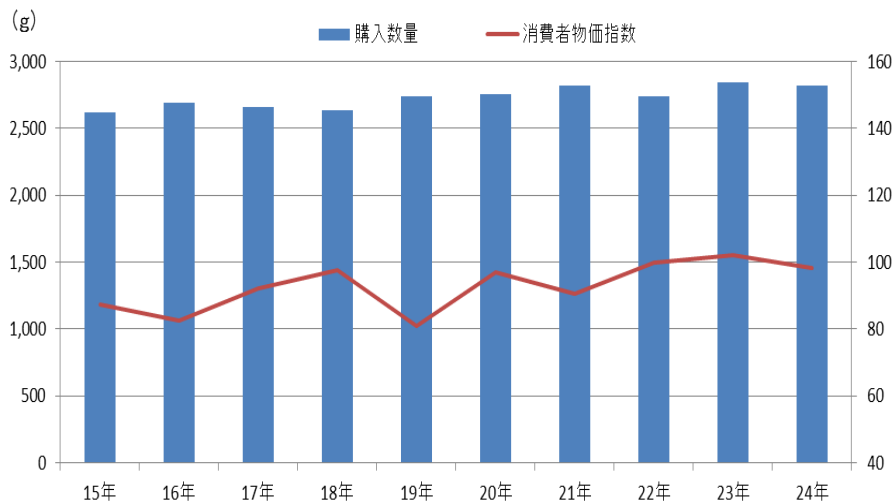
たまねぎの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

注:指数の基準は平成22年

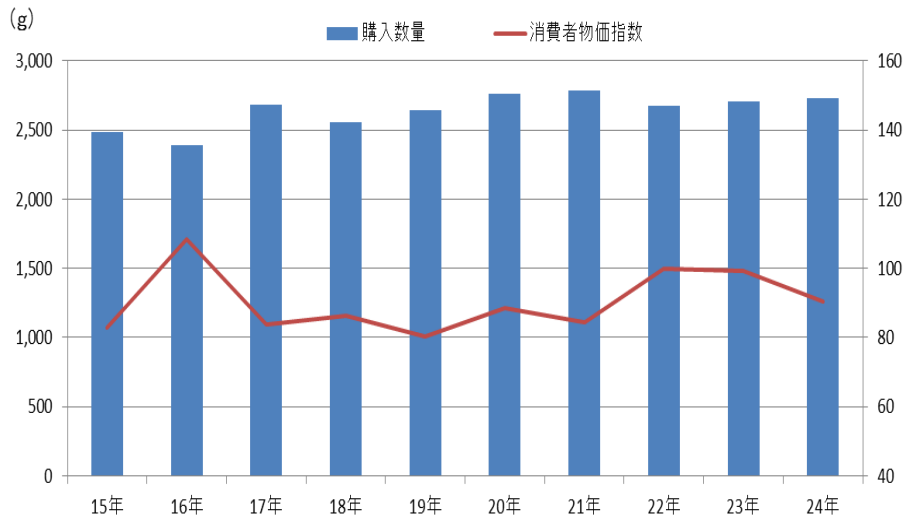
にんじんの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

注:指数の基準は平成22年

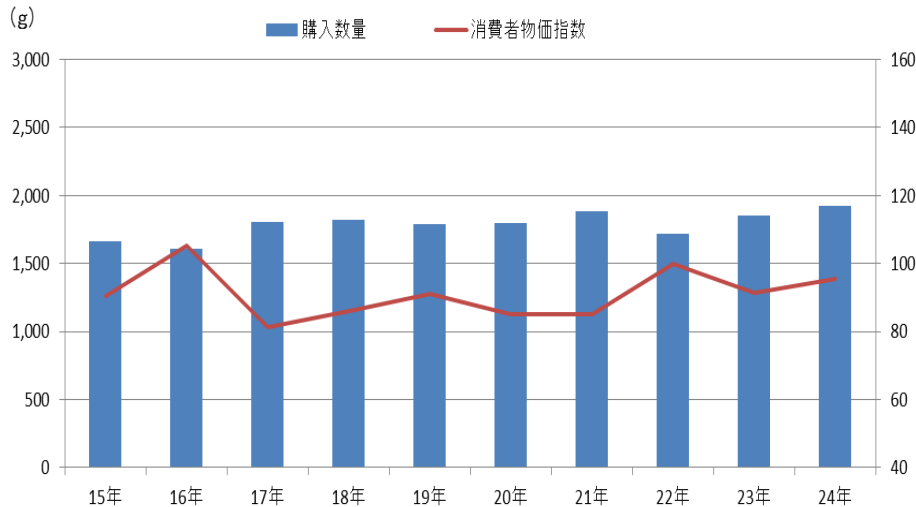
はくさいの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

注:指数の基準は平成22年

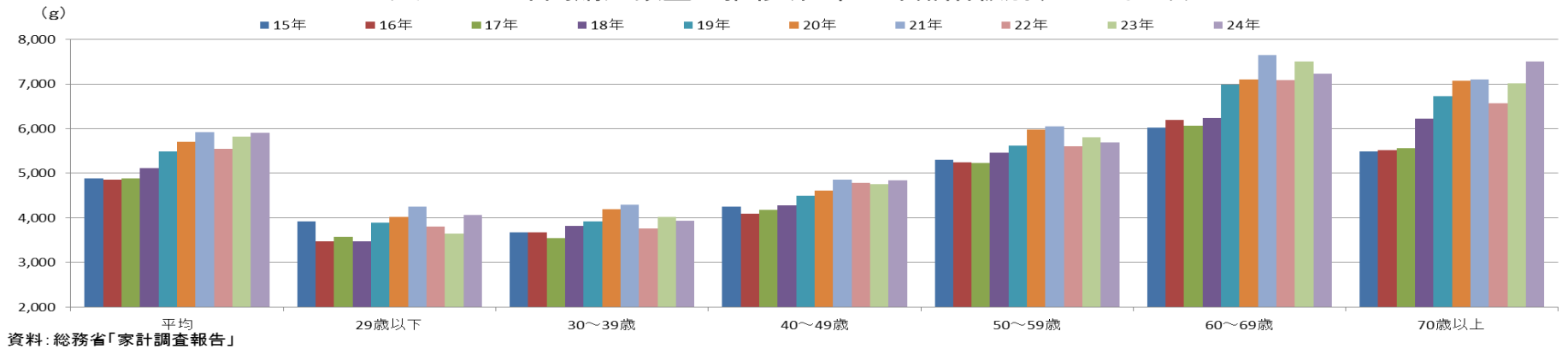
レタスの1人当たり年間購入数量及び消費者物価指数の推移



資料:総務省「家計調査報告(二人以上の世帯)」、「消費者物価指数」

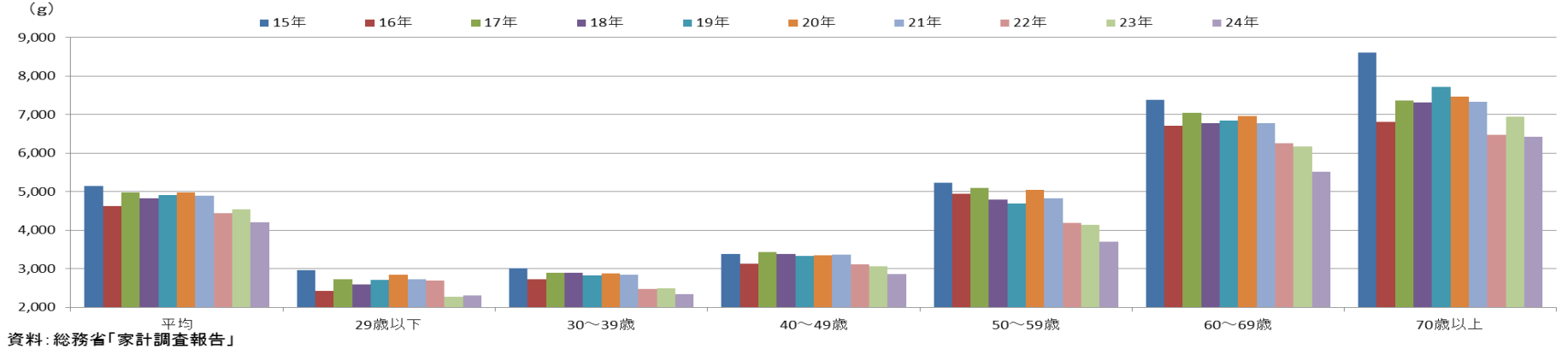
注:指数の基準は平成22年

キャベツの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



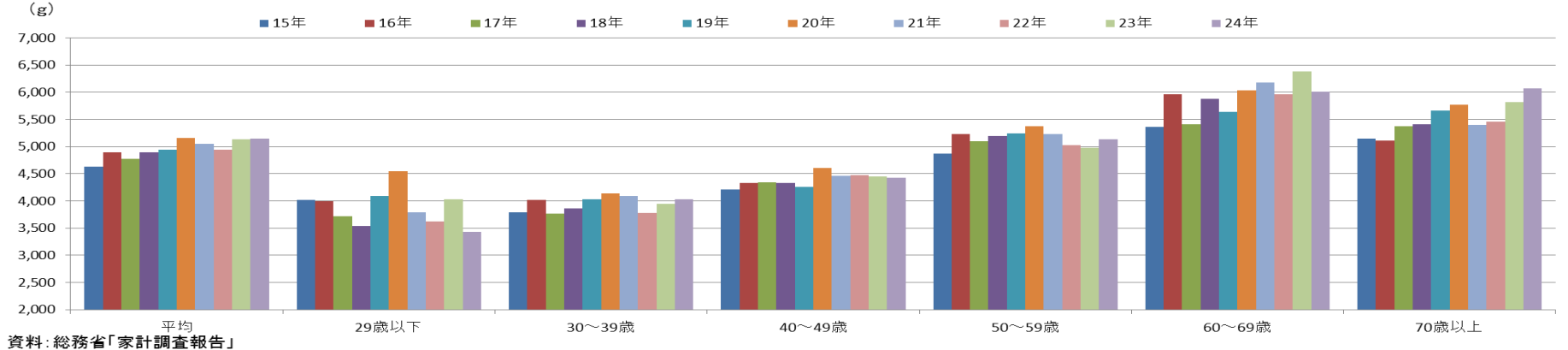
資料:総務省「家計調査報告」

だいこんの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



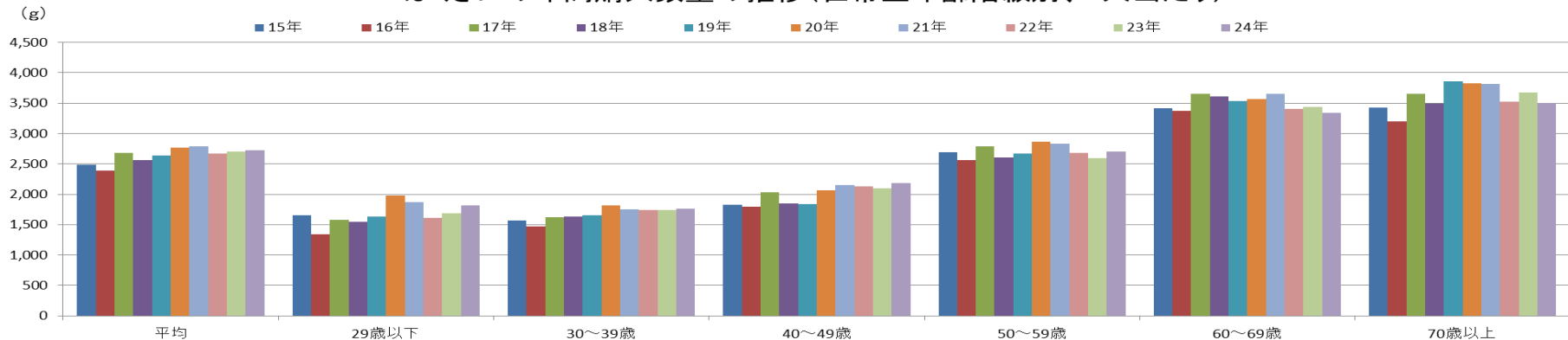
資料:総務省「家計調査報告」

たまねぎの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



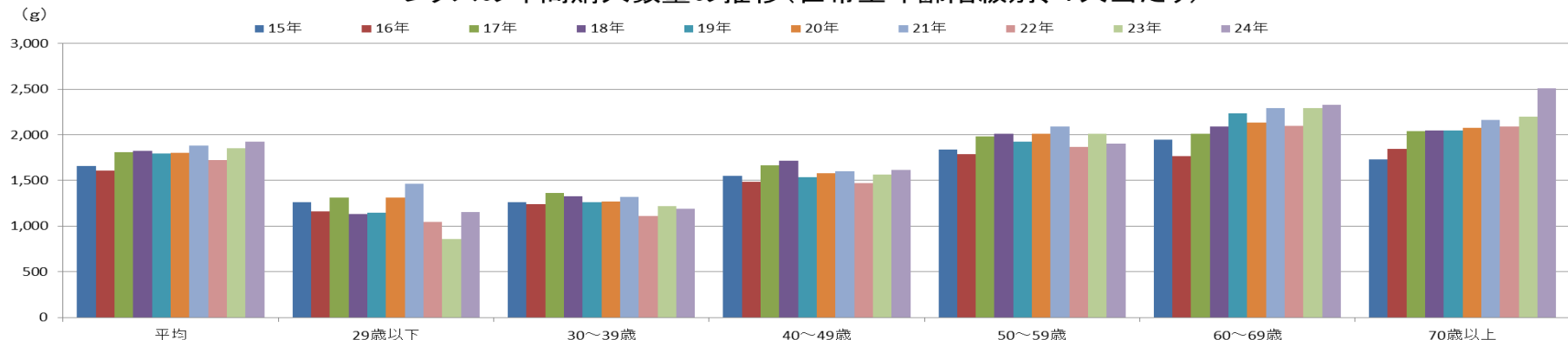
資料:総務省「家計調査報告」

はくさいの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



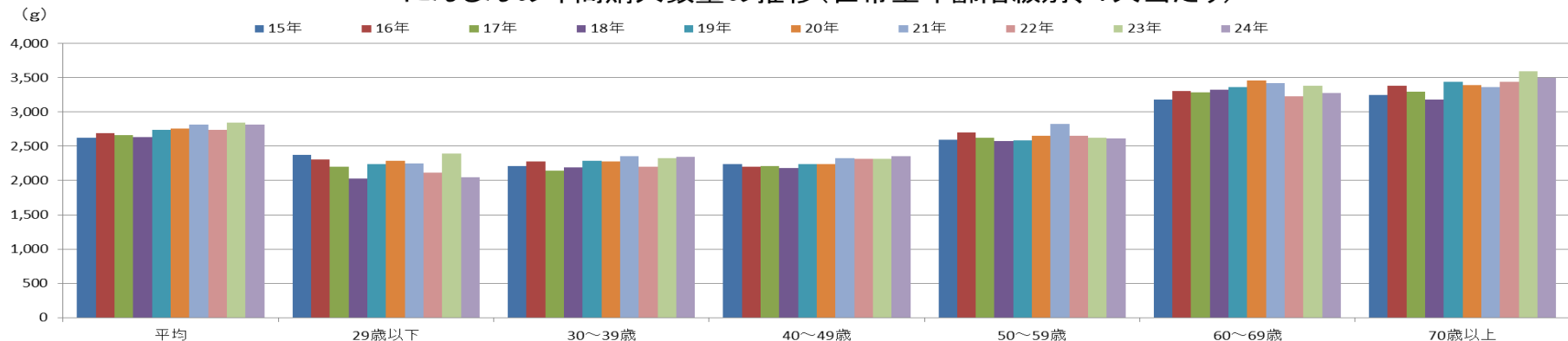
資料:総務省「家計調査報告」

レタスの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



資料:総務省「家計調査報告」

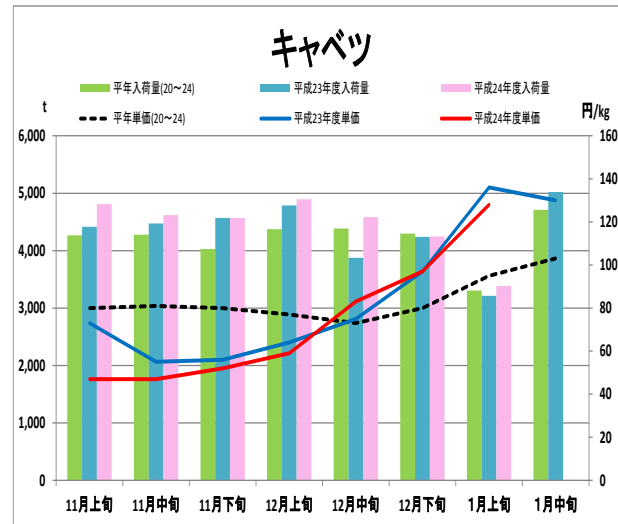
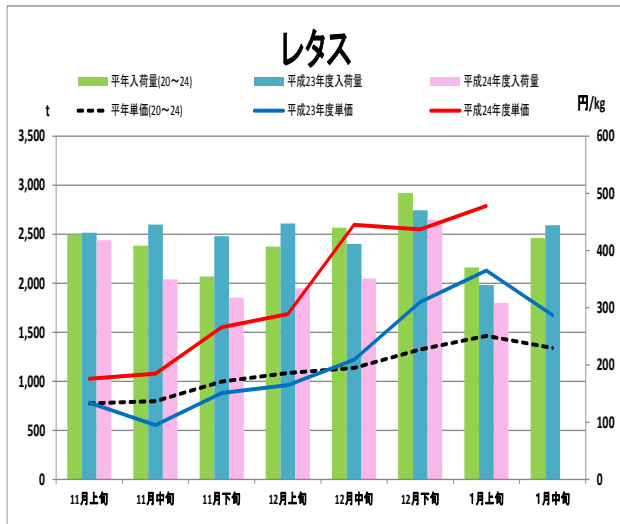
にんじんの年間購入数量の推移(世帯主年齢階級別、1人当たり)



資料:総務省「家計調査報告」

レタスとキャベツの価格動向

レタスとキャベツの入荷量と卸売価格の推移(11月上旬~1月中旬、東京都中央卸売市場)



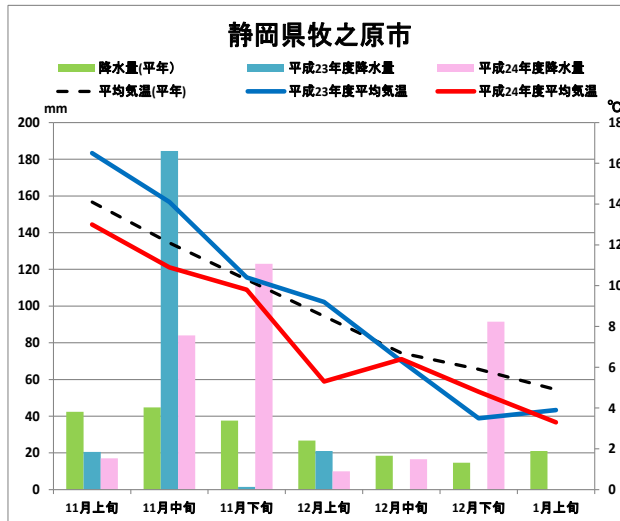
資料：青果物情報センター

レタスは、11月上旬から少なめの入荷量となり、価格が平年及び前年を上回って推移し、12月中旬以降、価格が大きく上昇している。入荷量が減少したのは、11月以降、平年より早い寒さが訪れたことから生育が停滞し、供給量が少なくなったことによる。

一方、キャベツの価格は、11月上旬から12月上旬までは、平年及び前年を下回って推移していたが、12月中旬以降、入荷量がおおむね平年及び前年を上回っていたにもかかわらず、価格は平年を上回って推移している。

これは、レタスの入荷が少ない中で、加工・業務用を中心にレタスからキャベツへの代替需要があったことが大きく影響したものと思われる。

レタスの主産地の気象(11月上旬~1月上旬)



資料：ベジ探(原資料)気象庁「気象統計情報」

レタスとキャベツの旬別入荷量と単価の平年比の比較(東京都中央卸売市場)

時期	品目	入荷量平年比	単価平年比
平成17年冬(12月下旬)	レタス	86%	157%
	キャベツ	100%	179%
平成24年冬(12月中旬)	レタス	84%	187%
	キャベツ	103%	109%
平成24年冬(12月下旬)	レタス	94%	158%
	キャベツ	100%	113%
平成25年冬(1月上旬)	レタス	83%	190%
	キャベツ	103%	135%

注:平成15年以降で、冬期のレタスの単価が高く(150%以上)、キャベツの入荷量が平年並み以上の時期を抽出した。

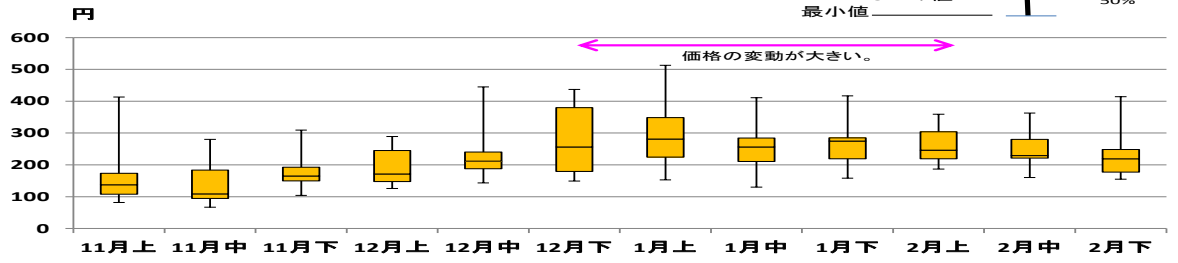
資料：青果物情報センター

過去のレタスとキャベツの入荷量と価格の関係を見ると、レタスの入荷量が少なく、価格が高くなると、キャベツの入荷量は減少しなくても、価格が高くなっている。

今後、キャベツの主産地の愛知産の出荷は比較的順調であると見込まれるものの、レタスが主産地の静岡産等が低温の影響で、今後も少なめの出荷が続くと見込まれることから、キャベツの価格はしばらく高めに推移するものと思われる。

気温とレタスの価格の関係

平成15～24年度のレタスの旬別の卸売価格の変動状況(東京都中央卸売市場)



注:2月上旬から2月下旬までの価格には、平成24年度の価格を含まない。
資料:青果物情報センター

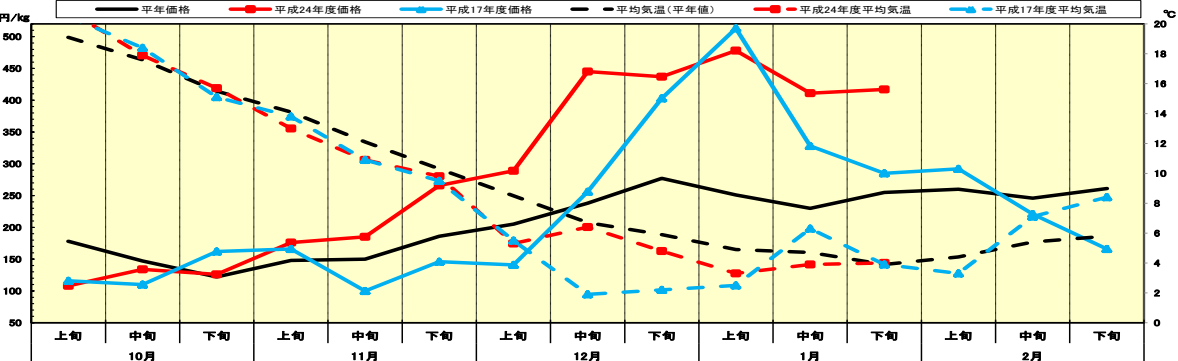
この冬のレタスの価格は、平年を大幅に上回って推移している。1月のレタスの価格は、波乱含みの年が多いと指摘する実需者も多い。実際、過去10年間のレタスの旬別の卸売価格の状況を見ると、12月下旬から2月上旬にかけて、その前後の旬に比べて価格の変動が大きくなっている。

1月に出荷されるレタスは、10月頃に播種・定植され、11月から12月にかけてが重要な生育期間となる。冬場のレタスの生育には、特に気温の影響が大きいといわれているが、今年と似た価格変動を示した平成17年度の主産地の気温の変化を見ると、今年と同様に、11月から12月にかけて、平年をかなり下回っている。

そこで、11月から12月までの積算温度と1月の卸売価格について相関をとったところ、高い相関が見られ、この期間の積算温度が低いほど、1月の価格が高くなる傾向がある。

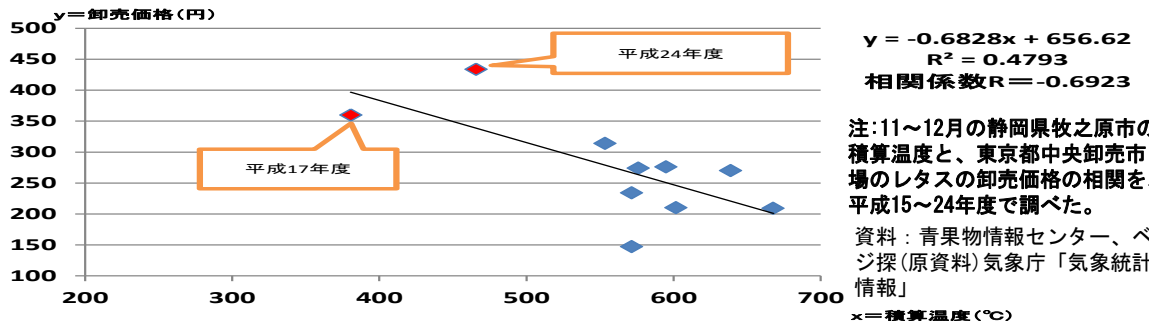
なお、平成17年度は、1月中旬以降、気温が平年並みとなったことから、価格は1月上旬をピークに落ち着きを取り戻した。気象庁の3か月予報によると、今年の2月の気温は、平年並みと見込まれていることから、価格は、引き続き平年を上回って推移するものの徐々に落ち着いてくる見込み。

レタスの卸売価格(東京都中央卸売市場)と主産地(静岡県牧之原市)の平均気温の推移(10～2月)



資料:青果物情報センター、ベジ探(原資料)気象庁「気象統計情報」

主産地(静岡県牧之原市)の11-12月の積算温度とレタスの1月の卸売価格(東京都中央卸売市場)の相関



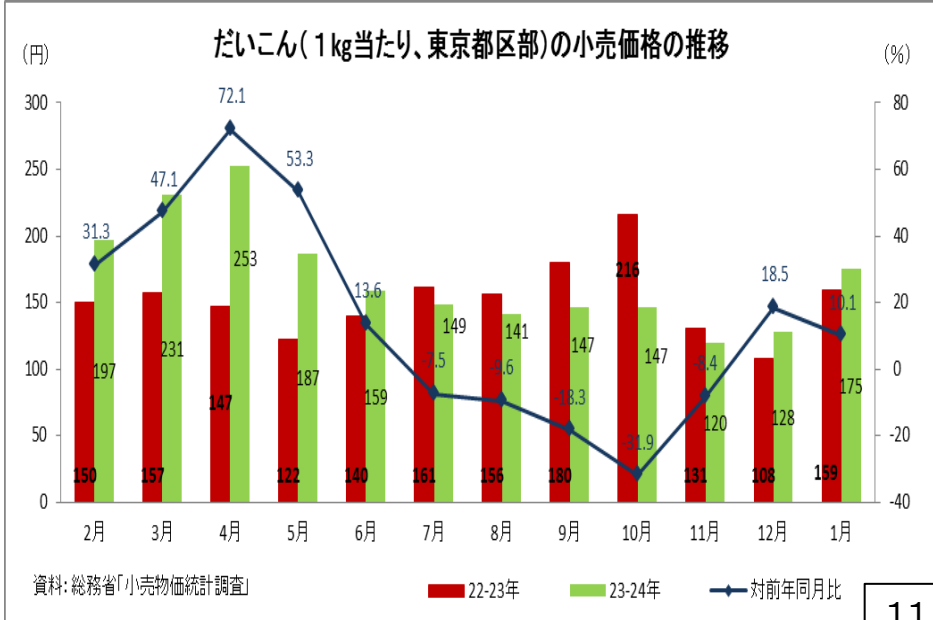
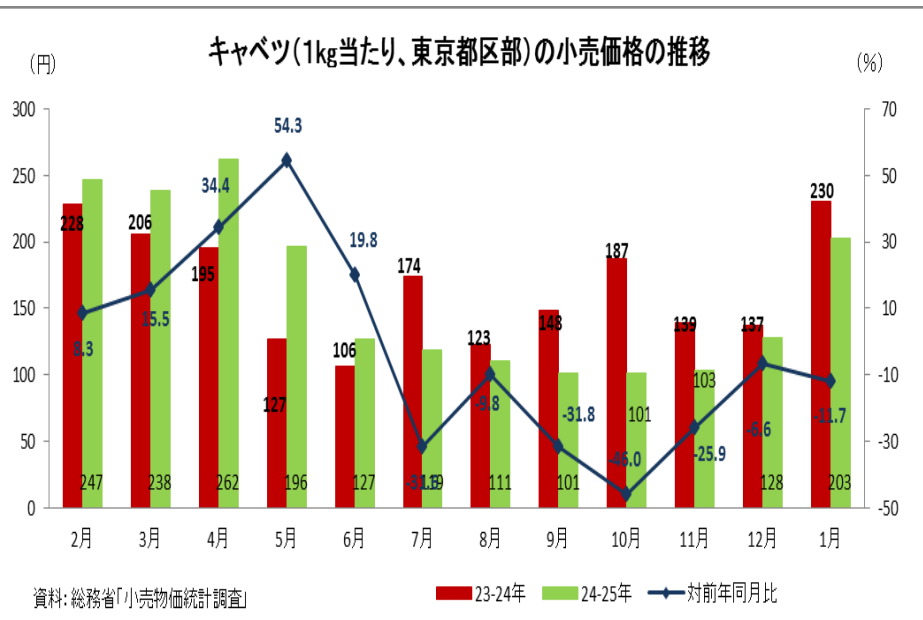
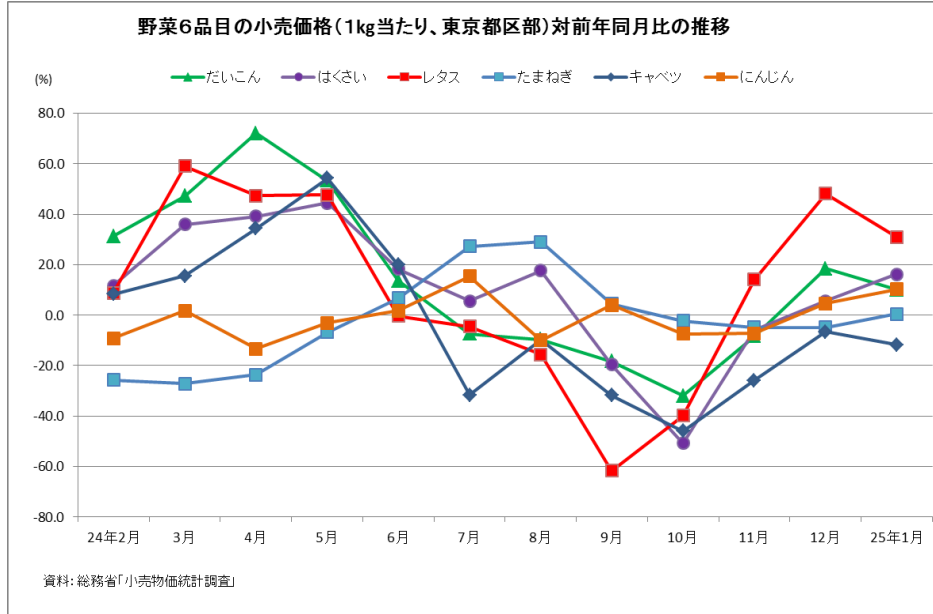
注:11～12月の静岡県牧之原市の積算温度と、東京都中央卸売市場のレタスの卸売価格の相関を、平成15～24年度で調べた。

資料:青果物情報センター、ベジ探(原資料)気象庁「気象統計情報」

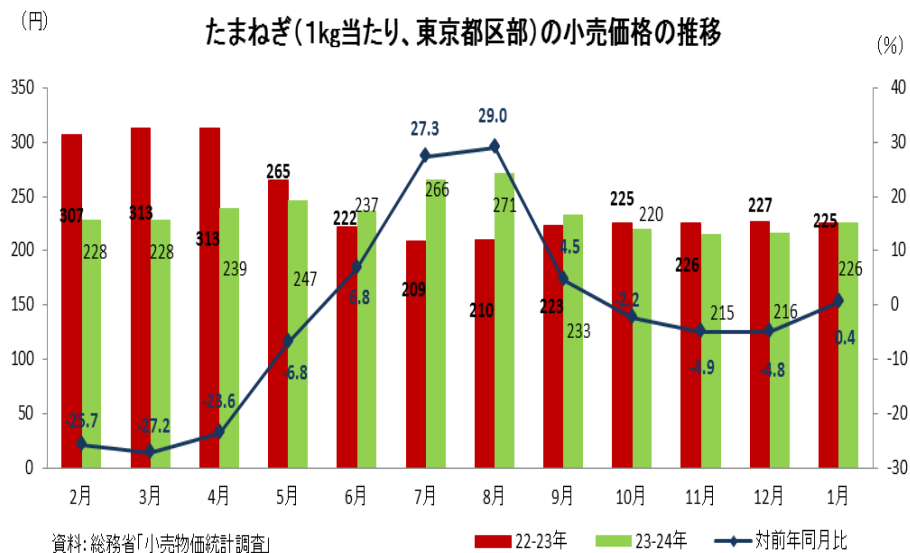
x=積算温度(°C)

4 小売価格の推移

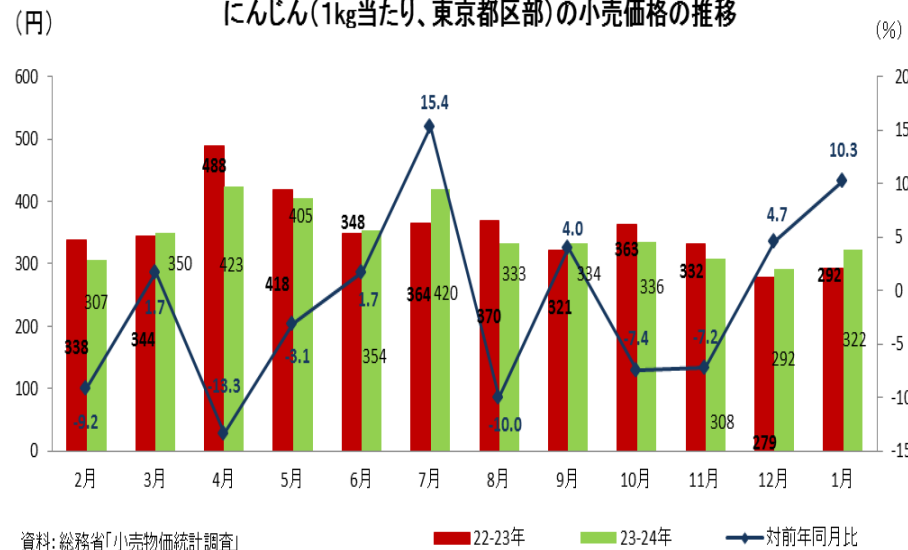
- ・キャベツ、だいこん、はくさい及びレタスは、低温、少雨等の影響による生育停滞により出荷量が伸びず、2～6月は、おおむね前年を大きく上回った。7月以降、好天に恵まれたことや作型の変更により出荷量が増えたことからキャベツ及びだいこんは、前年を下回ったが、12月以降、だいこんは、天候不順により出荷量が伸びず、前年を上回った。また、はくさいは、9～11月は、好天等による順調な生育により出荷量が増え、前年を下回ったが、低温と降雪の影響から、12月以降は、前年を上回った。レタスは、9月及び10月は、前年が長野県で病害が発生したなどの影響により高値であったことから、前年を下回った。低温による生育停滞等により11月以降は出荷が伸びず、前年を大きく上回った。
- ・たまねぎは、2月以降、前年不作であった北海道産が順調に出荷されたことから、前年を下回った。6～9月は、府県産の不作により前年を上回った。10月以降は、北海道産が豊作基調となり、前年を下回って推移した。1月は、他の野菜の価格が高めに推移し、代替需要が堅調なこともあり前年を上回った。
- ・にんじんは、2～5月は、主産地の生育が順調であったことから、3月を除き前年を下回った。6月、7月及び12月以降は、主産地の低温による生育遅れの影響から前年を上回ったものの、8～11月は、生育が順調で出荷量が伸びたことから、前年安値であった9月を除き前年を下回った。



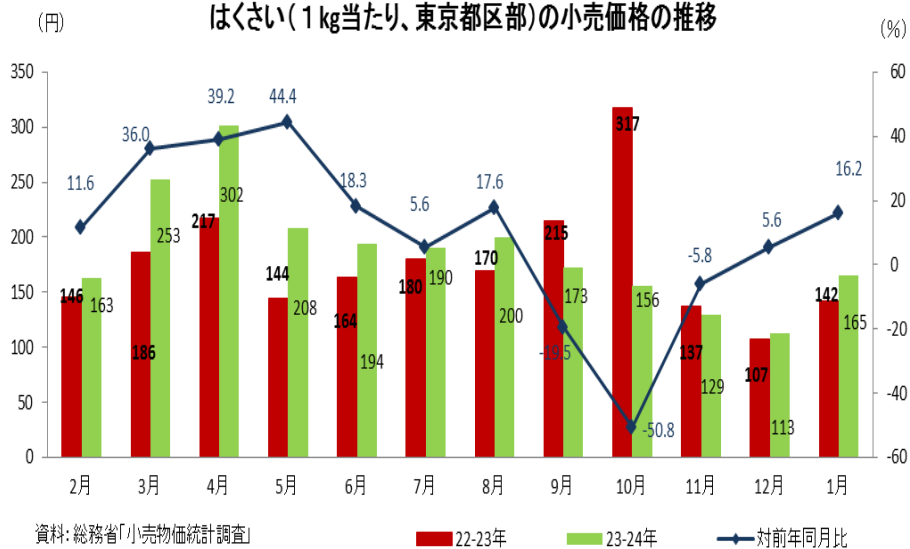
たまねぎ(1kg当たり、東京都区部)の小売価格の推移



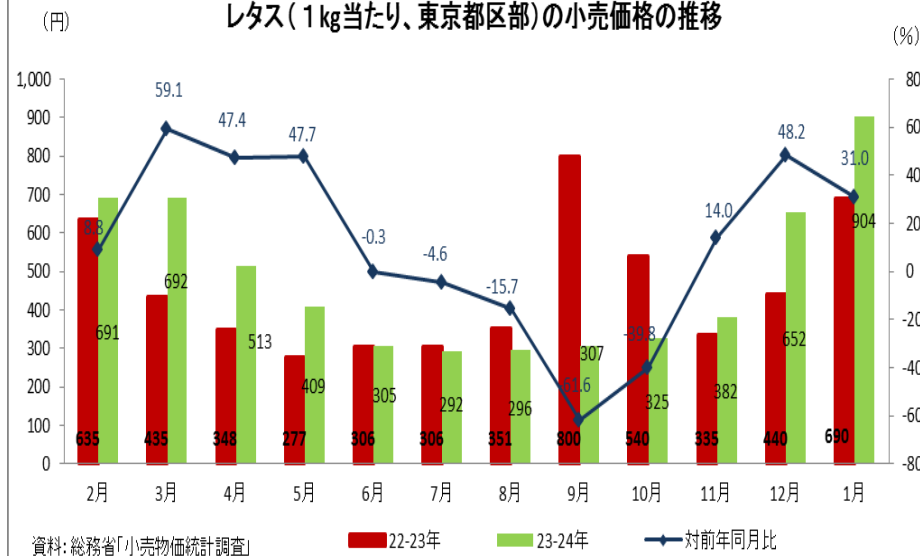
にんじん(1kg当たり、東京都区部)の小売価格の推移



はくさい(1kg当たり、東京都区部)の小売価格の推移



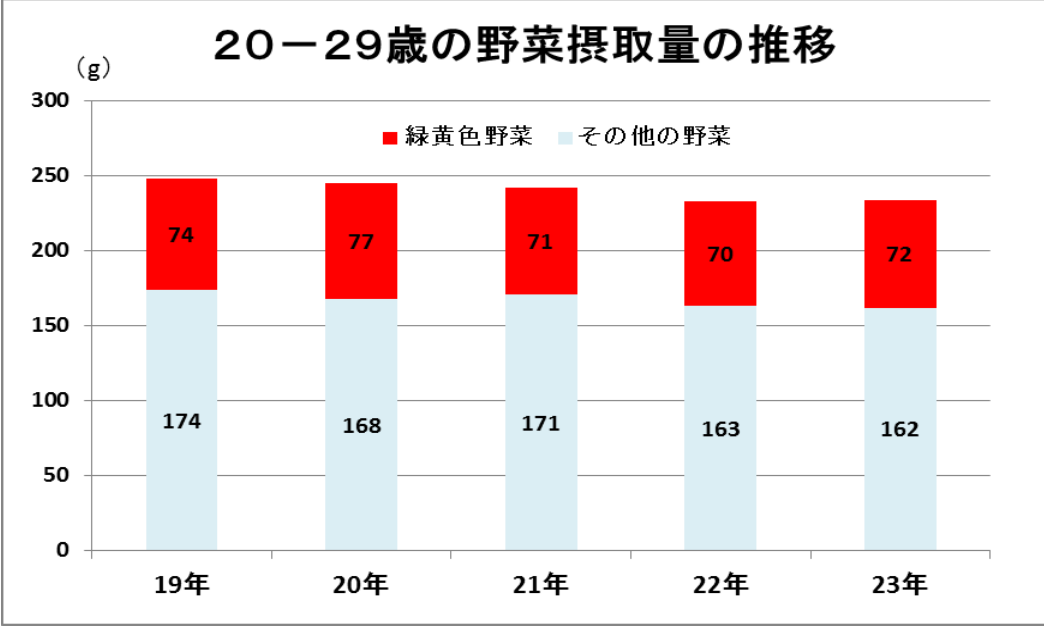
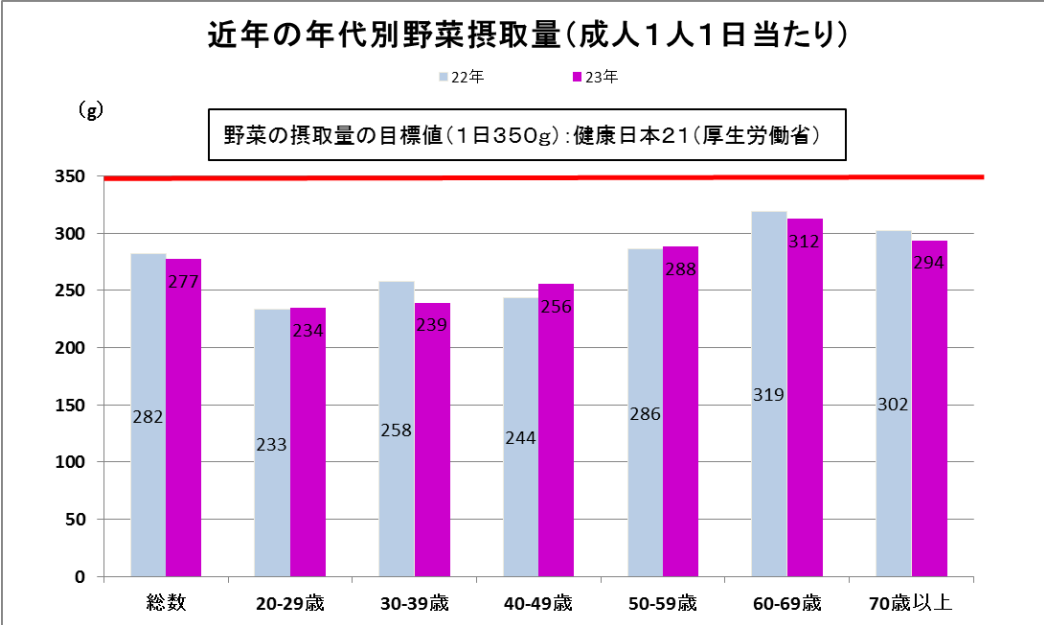
レタス(1kg当たり、東京都区部)の小売価格の推移



5 野菜の年齢階級別摂取量

・平成23年の成人1人1日当たりの野菜摂取量は、前年に比べて5g減少して277g(前年比98%)となった。また、依然として、20代、30代及び40代が少ない水準となっている。

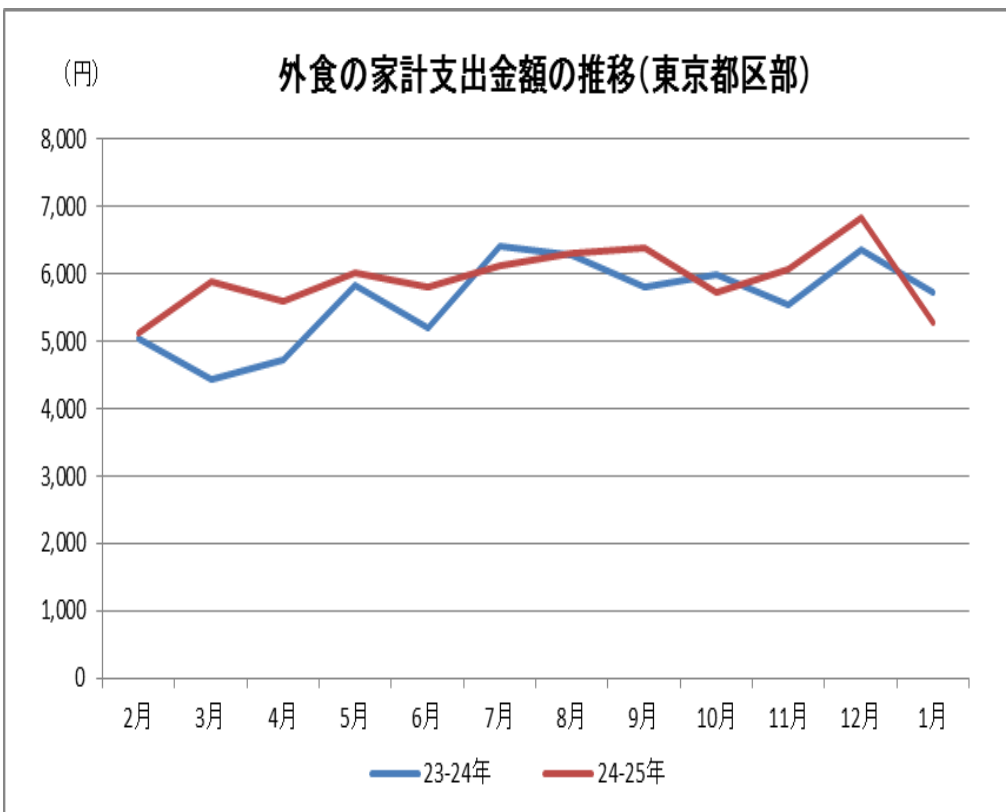
・摂取量が一番少ない20代の野菜摂取量は、年々減少傾向となっていたが、平成23年は、わずかに増加した。



資料:厚生労働省「国民健康・栄養調査結果」

6 業務用需要の推移

(1) 外食の家計支出の推移



家計調査(東京都区部)

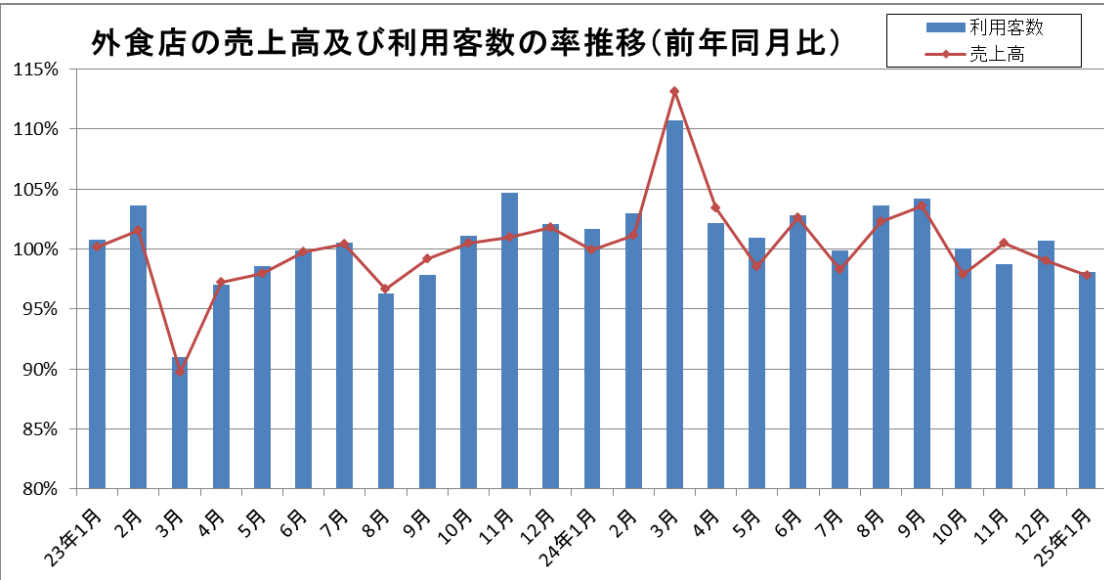
品目分類	24.1支出金額	25.1支出金額	対前年同月比
世帯人員	3.01	2.96	-
消費支出	323,998	305,930	94%
食料	78,796	73,436	93%
外食	17,199	15,649	91%
消費支出に占める割合(%)	5.3	5.1	96%
食料に占める割合	21.8	21.3	98%

・1月の1人当たりの外食に対する家計支出金額は、全国的に平年より気温が低く、関東地域でも降雪の日も多かったことから、対前年同月比91%となっている。

資料：総務省「家計調査(二人以上の世帯、東京都区部・全国)」

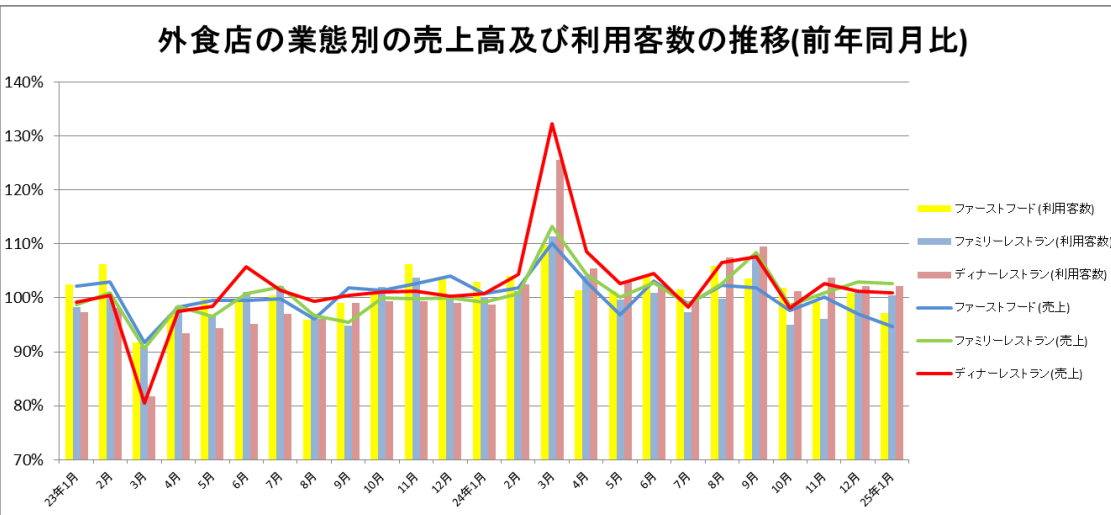
(2) 外食店の売上高及び利用客数の推移

外食店の売上高及び利用客数の率推移(前年同月比)



・外食店の売上高及び利用客数は、震災の影響で平成23年が少なかったこともあり、平成24年1月以降、ほぼ前年を上回ったが、7月以降、オリンピック開催による「外食控え」、天候や景況感の悪化等により、前年同月を下回る月があった。平成25年1月の売上高は、全国的に気温が低く、対前年同月比97.8%、利用客数は同98.1%となった。

外食店の業態別の売上高及び利用客数の推移(前年同月比)



・業態別に見ると、どの業態も売上高は前年を上回った。ファーストフードは、ほぼ前年を上回ったが、9月以降、10月、12月及び平成25年1月の売上高は、前年をやや下回った。ファミリーレストランは、売上高、利用客数とも10月は前年をやや下回った。ディナーレストランは、7月及び10月を除き、売上高、利用客数ともに前年を上回って推移している。

資料：社団法人日本フードサービス協会「全店時系列データ」

7 今後の天気

1. 向こう1ヶ月(3月2日～4月1日)

- ・気温は、2週目は、北・東・西日本では平年より高くなる見込みで、3～4週目は、北・東・西日本では平年並みの見込み。
- ・降水量は、北日本の日本海洋側では平年並みか多くなり、東日本の日本海側では平年より少なくなり、北・東西日本の太平洋側及び西日本では平年並みか多くなる見込み。

2. 3月～5月

○ 3月

- ・気温は、北・東・西日本では平年並みの見込み。
- ・降水量は、北日本では平年より多く、北・東日本では平年並みの見込み。

○ 4月

- ・気温は、北日本では平年より高く、東・西日本では平年並みの見込み。
- ・降水量は、北・東・西日本では平年並みの見込み。

○ 5月

- ・気温は、北・東日本では、平年並みか高くなり、西日本では平年より高くなる見込み。
- ・降水量は、北・東日本の日本海側及び西日本では平年並みで、北・東日本の太平洋側では平年より高くなる見込み。

3. 6月～8月

- ・気温は、北・東・西日本では平年並みか高くなる見込み。
- ・降水量は、北・東日本では平年より少なく、西日本では平年並みの見込み。

4. エルニーニョ/ラニーニャ現象

- ・エルニーニョ現象もラニーニャ現象も発生していない平常の状態が続いている。
- ・エルニーニョ監視海域の海面水温は、今後しばらく基準値より低い値で推移するとみられるが、春の間にこの傾向は弱まり、ラニーニャ現象の発生には至らない可能性が高い(ラニーニャ現象発生時の日本の春(3～5月)の平均気温には特に傾向は見られないが、降水量は、東・西日本の日本海側で少ない傾向)。
- ・夏にも平常の状態が続く可能性が高い。

出典:「全般1ヶ月予報解説資料(平成24年10月26日気象庁地球環境・海洋部)

「全般3ヶ月予報(3月～5月)解説資料」(平成25年2月25日気象庁地球環境・海洋部)

「全般暖候期予報解説資料(平成25年2月25日気象庁地球環境・海洋部)

「エルニーニョ監視速報(No.241)」(平成24年10月11日気象庁地球環境・海洋部)

(参考)

◎1ヶ月(3月2日～4月1日)予報に見る確率

気温	1週目(%)			2週目(%)			3～4週目(%)		
	低	並	高	低	並	高	低	並	高
北日本	20	40	40	10	30	60	30	40	30
東日本	20	50	30	10	30	60	30	40	30
西日本	20	50	30	10	30	60	30	40	30
沖縄・奄美	20	50	30	20	30	50	30	40	30

	気温(%)				降水量(%)			日照時間(%)		
	低	並	高		少	並	多	少	並	多
北日本	20:40:40			日本海側	20:40:40			40:40:20		
				太平洋側	40:40:20			30:30:40		
東日本	20:40:40			日本海側	40:30:30			30:30:40		
				太平洋側	40:40:20			20:40:40		
西日本	20:40:40			日本海側	40:40:20			20:40:40		
				太平洋側	40:40:20			20:40:40		
沖縄・奄美	30:30:40				40:40:20			20:40:40		

◎3ヶ月(3～5月)予報に見る確率

気温	3か月			3月			4月			5月		
	低	並	高	低	並	高	低	並	高	低	並	高
北日本	30	30	40	30	40	30	30	30	40	20	40	40
東日本	30	30	40	30	40	30	30	40	30	20	40	40
西日本	30	40	30	30	40	30	30	40	30	30	30	40
沖縄・奄美	40	30	30	40	30	30	40	30	30	30	40	30

降水量		3か月			3月			4月			5月		
		少	並	多	少	並	多	少	並	多	少	並	多
北日本	日本海側	30	40	30	30	30	40	30	40	30	30	40	30
	太平洋側	30	30	40	30	30	40	30	40	30	30	30	40
東日本	日本海側	30	40	30	30	40	30	30	40	30	30	40	30
	太平洋側	30	30	40	30	40	30	30	40	30	30	30	40
西日本	日本海側	30	40	30	30	40	30	30	40	30	30	40	30
	太平洋側	30	40	30	30	40	30	30	40	30	30	40	30
沖縄・奄美		40	30	30	40	30	30	40	30	30	40	30	

注:「低 並 高」、「少 並 多」は、それぞれ平年との比較

出典:「全般1ヶ月予報解説資料(平成25年3月1日気象庁地球環境・海洋部)

「全般3ヶ月予報(3月～5月)解説資料」(平成25年2月25日気象庁地球環境・海洋部)

◎ 暖候期予報(6月～8月)に見る確率

		気温 (%)			降水量 (%)			梅雨降水量 (%)		
		低	並	高	少	並	多	少	並	多
北日本	日本海側	20	40	40	40	30	30	40	30	30
	太平洋側	20	40	40	40	30	30	40	30	30
東日本	日本海側	20	40	40	40	30	30	40	30	30
	太平洋側	20	40	40	40	30	30	40	30	30
西日本	日本海側	20	40	40	30	40	30	30	40	30
	太平洋側	20	40	40	30	40	30	30	40	30
沖縄・奄美		30	40	30	20	40	40	30	40	30

注:「低 並 高」、「少 並 多」は、それぞれ平年との比較

出典:「全般暖候予報解説資料」(平成25年2月25日気象庁地球環境・海洋部)